

市民活動ニュース

第83号

2008年3月

始めます！こんなこと、あんなこと

大雪の中、第8回市民交流会に約200名参加

前日の夜から雪が降り始め、早朝から吹雪のような雪模様となった2月24日。会場となる中部中学校では、スタッフの除雪作業から始まり、開会セレモニーが始まるころには、心配された来場者も徐々に増えてきました。

子どもたちによるわらべ歌遊びから始まりました。「かごめかごめ」から「まりつき唄」まで昔懐かしい歌と踊りに、大いに盛り上がりました。続いて、三重大学大学院工学研究科 川口淳 准教授による「いつ起こるかわからない大地震への備え」の基調講演では、防災とやらんで重要な「減災」を教えてくださいました。



来場者が増えてきた会場では、バザーや展示ブースでの交流の輪が広がり、昼近くになって4つの分科会の会場に分かれました。

「明日来るかも？大地震！！」分科会では、非常食や防災グッズを整える、安全な地帯を確かめるなど、色々な話がありましたが、ひとつの言葉にすれば、自分の身を守ることだとして次の宣言をしました。「私たちは常に防災意識を高め、わが身を守ることとします。」



「安心な食べ物を食べるには」分科会では、食材の知識を深めよう、和食を中心にもっていこう、食材を無駄にしないように最後まで無駄なく使いおいしく食べよう、男性も台所に立とう、自分たちで土作りをして生産地を自分たちに引き寄せよう、ということで「地産地消から自産自消へ」と宣言しました。

「子どもを悪から守るには」分科会では、特に携帯電話にしぼって話し合いました。子どもの時間の隙間に携帯電話が入り込んで広がった、正しい知識を持って親子で話し合いながらルール作りをしよう、子どもを守るメーリングリストを作り保護者、先生、市民が情報の共有と交流をしていこう、と第一歩を踏み出しました。

「高齢者の安心とは」分科会では、サークル活動を活発にするために、茶飲み友達をつくろう、満腹にならない程度に地場産を食べよう、ほどほどの距離はウォーキングで、と3つのポイントを決めました。

川口先生講評

天候の悪い中、これだけの人が集まってびっくりし頼もしく思いました。分科会で話し合ったことが次のステップになり、地に着いた市民活動になっていくと思います。市民活動はがんばりすぎないで生活の中に組み込むといいです。結論だけでなくプロセスが大事です。市民の活動も普段のちょっとしたことを上手に取り入れ、自分のものにしていくのがよいです。

また亀山は津波の心配はないので比較的安全と思いますが、局所的な災害はあるでしょう。大地震災害は広範囲で起こるので、亀山を最優先して助けに来られないと思うから、近くの被災者を市民みんなで助けに行けるような準備が必要です。





つなごう！子どもを守り育てるために メーリングリスト「かめやまこどもをまもるネットワーク」誕生

中部中学校で開催された第8回市民交流会の分科会「子どもを悪から守るには」で新しい企画が誕生しました。当日は保護者、教育関係者等から様々な意見が出され、携帯電話での危険サイト、携帯電話への中毒とも言えるような依存状態への対策等、学校だけに任すのではなく、本当に重要なのは家庭での正しい理解と指導だという結論になりました。しかしながら、昨今の急速に進歩する情報社会に対応していくことは容易ではありません。また、市街化、核家族化が進むこのまちの子どもたちの将来にも、不安なことが多々あります。

そこで、携帯電話等を拒否するのではなく、むしろそれを有益な道具として自分たちで活かしていこうという趣旨で、教育関係者、祖父母を含む保護者、市民有志による新しい情報交換ネットワークを始めることになりました。すでに当地には行政が運営する「かめやま安心メール」がありますが、これは配信だけの一方通行です。それに対して今回始める企画は、参加者が誰でも対等に発信できるメーリングリスト(ML)がその主体で、すべての参加者間で情報の共有化ができます。

メーリングリストこどもをまもる亀山ネットワーク kodoma@shimin-kyodo.sakura.ne.jp とは？ こども@と覚えてください。

- ・発信情報の内容は、子どもの安全に関係したことから何でもOKで自由に討議できます。
- ・携帯電話でもパソコンでも登録・使用ができます。添付ファイルも可能です。
- ・登録料、入会金、会費は無料です。

登録は:kodoma@shimin-kyodo.sakura.ne.jp あてに「 参加します」とメールするだけでその日に登録手続きができます。メールアドレスの外部事業者への漏えいの心配は無用です。使い方は、発信するのも、もっぱら受信するだけでも自由です。メールは、参加者すべてに、同時に届きます。皆さまの参加をお待ちしています。

2008年2月

かめやま子どもをまもるネットワークML

設立発起人 伊藤幸一 横山瑳江子 宇野勉 最所一子



こんな企画もありました。第8回市民交流会



市内各学校の生徒に呼びかけ、市民交流会のポスターが作られました。集まった数は、なんと44枚でした。力作の数々は各コミュニティ等に掲示された後、交流会会場と市民協働センターに掲示されました。

また、昭和49年の集中豪雨で被災した野登地区を描いた絵や和田町周辺の写真、民家火災の写真を展示したり、阪神大震災のビデオも放映されました。





市民交流の日 レポート 2月21日(木) 19:30～ 市民協働センター

テーマ ごみ減量について

アドバイザー:環境森林部 廃棄物対策室 小田氏、村山氏

《現状説明》

関の刈り草コンポストセンターでは堆肥化もしているので、利用してほしい。

最近では企業進出等でごみの量は増加傾向にある。亀山市全体の4分の3のごみにあたる一般ごみの減量化及び資源化に取り組みたい。

夏季は特に水分が多く60%くらいを占める。水切りに努めてほしい。

《質疑をまじえて》 :市民 :市廃棄物対策室

ペットボトルは一般ごみに入れていいとしているがどうなのか？

集積所では一般ごみになる。将来的には他の品目も含めて見直しをしたい。

燃料として使う観点ではプラスチックごみも熱源として役に立つのではないかな？

燃料として使うのがいいのか、リサイクル化か、もっと議論する必要がある。

行政は、市民に説明する義務がある。

分別をきちんとするには、ごみの見張り番がいる。鈴鹿市の例はどうか。

鈴鹿市は、専用のボックスがある。

亀山は捨てる側が捨て安いシステムになっている。

町内で分別指導をしたほうがいいのではないかな？

生ごみの水分を減らすにはどうしたらよいか？

スイカをそのまま捨てずにざるで一日置く。

堆肥化すれば水分も役に立つのでは？

刈り草コンポストと生ごみを一緒にできないかな？

肥料としては難しいらしいが、小学校の給食センター等でうまくやっているところもある。もっと調べてみたらどうか。

マイバック運動と地球温暖化防止を一本化できないのかな？

ペットボトルを洗って別の袋に入れたが処理現場では一緒にしている。

鈴鹿市ではペットボトルを再生して繊維にしている。

収集日を別にしたらどうか。袋の種類が多いのでは。

《今後の課題》

自分たちがどうするか案を出そう。

もっと話し合う必要がある。ペットボトルを減らす発想はないのかな？ 会議でいつも使うのは問題では、うまいお茶の意味がない。湯飲みで飲めばいい。消費者の姿勢である。

不法投棄はどこに連絡をすればよいか？ 関支所でパトロールしている。

自動販売機の廃止運動はできないか。コンビニで生ジュースを売るとか自販機を利用しない運動は？

水分減らすには？ 19000トン年間で1%減らすとどうなるのか計算したら。

生ごみを庭や畑に埋めるのは市街地では難しい。

水分を減らすというヒントをいただいたので自分たちの工夫のきっかけになる。

生ごみだけ日を決めて別に出す方法はできないかな？

野菜を多く食べると生ごみは増える。料理は皮をむかないで食べるといい。特に女性に聞いてほしいので説明会は昼に開催したらどうか。



次回、3月21日のテーマは、「ごみ減量について その2」です。

なお、4月21日のテーマは、「2008年度きらめき亀山21のあり方(テーマ)について」を予定しています。是非、ご参加ください。



私たちのまちの企業

企業との協働を一層推進するために、「企業の社会貢献活動」や「企業が行政と協働してまちづくりに参画している様子」などをご紹介します。

今回は、亀山茶農業協同組合の取り組みについて、
参事の中川さまに語っていただきました。

亀山茶農業協同組合は昭和40年に鈴鹿製茶(株)
と鈴鹿茶農協が統合し設立



三重県はお茶の生産全国第3位で、亀山市は県内第3位の生産地です。

中の山一帯の国有林、民有林を、県営農地開発事業として昭和58年に約88haの県下最大級の中の山パイロット茶園が完成し、亀山は鈴鹿、四日市に次ぐ県内第3位の生産地になりました。

亀山市の主要イベントには「亀山茶」をより多くの人に知ってもらうためと、市民、地元民とのふれあいを大切に・・・と無料喫茶を行っています。

- 1月・・・シティマラソン・亀山大市
- 4月・・・桜まつり
- 8月・・・納涼大会
- 10月・・・コスモスまつり・青空お茶まつり



亀山駅前には茶農協直売所「茶気茶気」があり、誰もが自由に風味豊かな亀山の多彩なお茶を飲めるスペースを設けており、皆さまから喜ばれています。

近年花粉症でお悩みの方が多く見受けられますが、花粉症に有効な成分を多く含む「紅ほまれ」を販売中です。

お茶に含まれる渋味成分であるカテキンのうち、花粉に有効なメチル化カテキンを多く含んでいます。

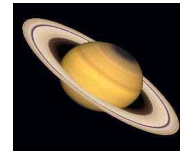
家庭用、携帯に便利なスティックタイプを揃えています。夏季においては、幅広い年代に人気の抹茶ソフトクリームがあり美味です。年間通じてどなたでも無料で利用できるギャラリーも併設しています。





坂下星見の会より 春の星空観察会のご案内

と き : 4月12日(土) 19:30~21:00
と ころ : 鈴鹿馬子唄会館 関町沓掛234番地
内 容 : 野外=望遠鏡による天体観察

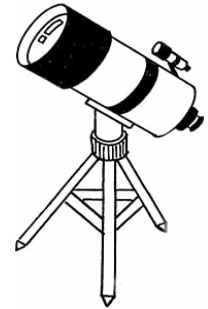


土星の環などいろんな天体を見てみよう!
屋内=木のホールにてビデオ上映
星のビデオ上映を予定しています。
寒さしのぎなどにもご利用下さい。

* 雨天・曇天時は、屋内のみとなります(ビデオなどで星空解説)

その他

- * 参加費無料、申し込み不要
- * 保護者同伴をお願いします。
- * あたたかい服装で来て下さいね。
- * 当日の様子をホームページなどに使用させていただく場合があります。ご了承ください。



問合先 : 鈴鹿馬子唄会館 96-2001 9:00~17:00

市民協働センター1周年記念事業を開催します!

昨年4月1日に市民協働センターがオープンし、早1年が経ちました。この間、市民協働センターでは、多種多様な公益性のある自主的な活動が行われ、多くの市民に親しまれてきました。また、より愛着や親しみをもってもらうために愛称を募集したところ、多くの応募がありました。

そこで、1周年を記念して愛称の発表と葉っぱ産業で有名な横石知二氏を招いての記念講演会を開催しますので、ぜひご参加ください。

と き : 4月12日(土) 13:00~16:30

と ころ : 市民協働センター 1階多目的ホール

内 容 : 市民協働センター愛称の発表、表彰
記念講演会
演題 「そうだ、葉っぱを売ろう!

~人は誰でも主役になれる~」

講師 株式会社 いろいろ 横石知二氏

問合先 : 市民参画協働室 電話84-5008 FAX82-1434

: 市民協働センター 電話84-5800 FAX84-5801



市民活動ニュースに掲載する情報・お便りを募集しています。

詳しくは、市民参画協働室(Tel 84-5008、Fax 82-1434、Email: shimin@City.Kameyama.mie.jp)

又は、市民協働センター(東町一丁目8番7号 旧百五銀行亀山支店跡 Tel.84-5800 Fax.84-5801、
Email: mail@shimin-kyodo.sakura.ne.jp) へご連絡ください。

編集作成: 「きらめき亀山21」広報部(問い合わせ先: 亀山市民部市民参画協働室 0595-84-5008)

〒519-0195 三重県亀山市民本丸町577番地 FAX 0595-82-1434 E-mail shimin@city.kameyama.mie.jp

この月刊新聞はこちらにもあります。【毎月21日市民交流の日・本庁ロビー・市民協働センター・関支所・図書館・歴史博物館・医療センター・総合保健福祉センター「あいあい」・関町北部ふれあいセンター・林業総合センター・鈴鹿馬子唄会館・老人福祉センター・健康づくり関センター・関B&G海洋センター・中央公民館・オアシス館・各地区コミュニティセンター・郵便局・亀山駅・市民のショップねこの館・鈴鹿県民センター・みえ市民活動ボランティアセンター(津市)】ホームページ <http://shimin-kyodo.sakura.ne.jp/kirakame21/> 市民ネット <http://www.shimin-kyodo.sakura.ne.jp/shiminet/>

「きらめき亀山21」メーリングリストへの加入は「きらめき亀山21」HPより登録できます。